

旅をしながらおてつだい 全国から6名が訪れました

株式会社おてつたびが運営する『おてつたび』を利用し、全国から6名の方々が本町を訪れました。

『おてつたび』とは、知らない地域で仕事をしながら旅をする新しい旅行の形で、地域の短期的・季節的な人手不足で困る事業者と、「知らない地域へ行きたい！」と思う地域外の方々と繋ぐ仕組みです。

今回は、(株)JTBと連携し、11月3日から12月3日まで天屋酒造(株)に3名と、12月2日から10日まで(株)おおさき町鰻加工組合に3名が全国各地から参加し、働きながら大崎町を旅しました。

(株)おおさき町鰻加工組合で働いた長野県出身の下里洋平さんは「鰻の加工は初めての経験で大変さもありましたが、働きがいがありました。休みの日はリサイクル施設の見学やくにの松原を散策し、おてつたびをとおして大崎町の魅力を知ることができました」と述べられました。



彩り豊かな花壇になりますように 西井俣集落若松会で花壇整備



11月15日(日)、西井俣集落の若松会(老人会)の皆さんが花壇作りを行いました。

若松会では、年間をとおして7回ほど東原大崎線沿いにある花壇の整備を行っています。

今回はパンジーなど5種類、250株の花々が植えられました。

同会の池尾忠男会長は「きれいに咲いてほしいです。ぜひ見に来てください」と述べられました。

県建設業協会曾於支部より 品物の寄贈をいただきました



11月20日(金)、役場応接室において、鹿児島県建設業協会曾於支部より、避難所などで使用するパーティション(品物名：KAMIKABE)の寄贈をいただきました。

いただいた品物は簡単に組み立て可能で、避難所における新型コロナウイルス対策やプライバシーの保護を図ることができます。

贈呈式で同曾於支部 理事の山下浩二さんは「災害時や有事の際に役立ててくだされば幸いです」と述べられました。